

会館だより



2015年 1月号

No. 307

 公益財団法人 日中友好会館



目次

年頭のご挨拶

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展「時に刻む木痕（もっこん）—中国新徽派（しんきは）版画展」

《日中友好後楽会》

- ・新春談話会
- ・新規会員ご紹介

活動記録

- ・第24回文化之日を終えて
- ・後楽会会員総会（もみじの会）
- ・秋季ハイキング
- ・小田原ホームステイの感想
- ・国会見学記
- ・後楽会（中国）友好联谊会 2014年度年次総会
- ・防災体験記
- ・「JENESYS2.0」中国学生訪日団第15陣が来日
- ・「JENESYS2.0」中国学生訪日団第16陣が来日

会館行事と人の動き

表紙

中国の民間工芸の剪紙（切り絵）。中国では春節（旧正月）前にきれいにした窓や張り替えた障子に、新しい剪紙や年画を貼ってお正月を迎える習慣があります。この剪紙は2015年の干支のひつじです。2015年が皆様にとって良い年になりますように。

年頭のご挨拶



(公財)日中友好会館
理事長 武田勝年

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年11月以降、日中間で大きな動きがありました。2012年9月、尖閣諸島所有権が国に移転して以来、日中関係は厳冬期が続いていましたが、11月10日両国首脳の会談が実現したことによって事態が好転させるための基礎は出来たと思います。両国政府間及び民間の様々な対話が復活し、相互信頼関係の回復が軌道に乗ることを期待しています。具体的には、12月初旬、新日中友好21世紀委員会が開催され、12月4日李克強首相が会見しました。12月28日、第8回日中省エネルギー・環境総合フォーラムが開催されました。

日中戦争終結70年、日中国交正常化43年、日中友好会館設立から32年目の年を迎え、我々は将来に向かって何を目標にし、何をすべきかを改めて考える時期と思いますので、年頭に当たって私の基本的な考えをご紹介します。

- (1) 日中関係は、厳冬期を抜け出すことは出来ると思いますが、過去の教訓を踏まえて、誠意・寛容・互譲の精神で各分野の交流を深化させ、「戦略的互惠関係」の構築を目指さなければなりません。
- (2) 中国は世界第二の経済大国であり、国内総生産(GDP)は日本の二倍以上です。政治・経済の両面においてその発言力と世界に与える影響は今後益々大きくなって行くでしょう。我々は、日々の動きに一喜一憂することなく、長期的な視点とグローバルな観点で中国の皆さんとの付き合いを深めて行かねばなりません。
- (3) 我々の公益事業の特徴は青少年との接点が多いことです。後楽寮には常時約200名の中国人留学生が住んで居り、2014年度は約1700名の中国高校生、大学生及び各分野の青年代表団を招聘する見通しです。国家の将来を担う両国の青少年が相手国に対する理解を深めることが、両国関係の健全な発展の基礎になることは間違いありませんので、青少年を対象とする事業の充実に努め、新たな施策も模索したいと考えます。
- (4) 会館の事業を発展させるためには、日々真剣に業務に取り組んでいる会館職員が楽しく働ける環境を整え、彼等の士気と能力の向上を図ることが大切です。中国との交流事業に熱意と意欲を持って取り組んでいる若手職員の創意と智慧を活かして業務を推進していきます。



(公財)日中友好会館
中国代表理事 王昆

新年おめでとうございます。

昨年も中日関係にとって非常に困難な一年でした。皆様方のご支持と日中友好会館全員の最大努力で青少年交流、文化交流、留学生管理、日中学院すべての事業においてその困難を最小限に止めました。

中日両国は地理的に文化的に感情的にも繋がりは深く、二千年の友好交流の歴史があります。両国が友好交流と相互協力関係を保つことは両国人民の根本的利益にかなうだけでなく、アジア或いは世界の平和、安定と発展にも資するものです。中日両国が共に手を携え、地域及び世界の平和、安定と発展に貢献していくことは両国の重要な使命であります。そのため、どのような理由があろうとも、両国は互いに傷つけあうのではなく、仲良くするべきです。

喜ばしいことは昨年11月、習近平主席は安倍晋三首相と会談した際、四つの原則的共通認識を得ました。今後、中日双方が原則的共通認識を確実に守り、しっかり実行に移し、両国関係が改善の方向に順調に進むように衷心より願っています。

日中友好会館も両国首脳会談を契機として、今後とも引き続き両国の青少年交流を主とする人的交流、文化交流、留学生管理、日中学院事業を積極的に行ってまいります。

今年も、引き続き関係者の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

行事案内

日中友好会館美術館

◆主催展

「時に刻む木痕（もっこん）—中国新徽派（しんきは）版画展」

会 期:2015年1月22日 ~2月25日

時 間:10時~17時

休館日:月曜日 入場料:無料

開幕式:1月22日(木) 15時より

安徽省美術家協会主席をはじめとする訪日代表団が出席予定

主 催:公益財団法人日中友好会館、安徽省美術家協会

後 援:中国駐日大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、(社)日中協会、(一社)日本版画協会



「昔日の輝き」章颺 木版 1990年

新春展は、1980年代から現代までの“新徽派”の版画家たちの作品約50点を展示します。

中国安徽省発祥の“徽派”（きは）版画は、精緻で秀麗な芸術的特徴があります。唐代から

の歴史があり明清時代に興隆し、版画芸術の大きな一派となりました。20世紀中頃から、頼少其をはじめとする安徽省版画家たちは魯迅が提唱した“新興木刻”（しんこうもっこく）を導入しながら安徽省の自然や時代を反映した版画を創作し、彼らは“新徽派”（しんきは）と呼ばれるようになりました。

本展では、木版をメインに、シルクスクリーン、水印（すいいん）木版、石版、銅版など様々な技法を用いた版画も展示します。ぜひお立ち寄りください。



(左)「蓮花峰」張国琳
木版 2007年

(右)「百花齊放」童兆源
木版 2006年

《美術館イベント》

●アーティストトーク:1月22日(木)

15:40頃より(約30分)

出展作家が作品を見ながらお話しをします。
入場無料、観覧自由。

●講演会&茶話会:2月5日(木)14:00~16:30

※ 要事前申込

講演「版画家から見た中国版画事情

—中国での10年の指導を通して—

講師:版画家 鹿取武司

講演会場:日中友好会館大ホール

参加費:500円(資料、茶話会代込)

定員:50名

*お申込みは、お電話・FAX・e-mailにて氏名・住所・電話番号をお伝えください。



- 春節ミニコンサート：2月19日（木）
14:00～（約30分）

春節（旧正月）の日にサクソ奏者の張誠さん（東京藝術大学大学院在籍）によるミニコンサートを開催します。入場無料、観覧自由。

- プレゼント抽選会

2月18日（旧暦の大みそか）、19日（旧正月）、20日、21日、22日にご来館の方に抽選で中国グッズをプレゼント！

【申込み・問合せ】

文化事業部（平日9時～17時）
電話：03-3815-5085 FAX：03-3811-5263
メールアドレス：bunka@jcfc.or.jp



日中友好後楽会

◆新春談話会

日時：1月16日（金）
17:30より（受付17:00～）
会場：小石川後楽園 涵徳亭
参加費：会員 2,000円／人
非会員の方はお問い合わせください

2015年最初の後楽会行事は、毎年恒例の新年会です。会員、寮生が多く集まって賑やかに立食パーティを行いたいと思います（講義はありません）。この機会に2015年の行事へのご希望、ご意見などもお聞かせ下さい。

◆新規会員ご紹介

2014年12月ご入会
橋本和久さん（個人）

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹
電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263
メールアドレス：kourakukai@jcfc.or.jp

活動記録

◆第24回文化之日を終えて

「第24回中国文化之日」では、「印象青海」と題し、中国青海省文化・新聞出版庁と共催で青海省民族歌舞団による民族歌舞・藏劇の公演と仏画「タンカ」の展覧会を開催しました。青海省政府が日本で行う文化活動は、建国から65年以来初めてとなり記念すべき交流となりました。



タンカ絵師による制作実演

展覧会は9月26日から10月19日の期間に美術館にて、チベット仏教の軸装仏画「タンカ」35点を展示しました。タンカの制作が古くから盛んなレゴン地方（青海省黄南チベット族自治州同仁県に相当）の絵師による精緻な手書きタンカのほか、金線細工、真珠、刺繍など様々な技法を用いたタンカを紹介しました。初日には、青海省文化・新聞出版庁副庁長やタンカ絵師の来日代表団5名を迎え、開幕式と制作実演を行いました。来場客からは「本場の絵師が描くところが見られて大変貴重だった」「タンカを初めて知った。素晴らしい」と好評でした。また、国慶節を祝った古筝コンサートや公演団員による歌・伝統楽器演奏など、美術館内の無料イベントを隔週で催し、多くの方が来場しました。

公演では青海省民族歌舞団を招き、会館大ホールにて10月17日から19日の期間に、文

京区立金富小学校の生徒と埼玉県保育園児を招いた特別公演、一般公演の計5回を行い、合計764名が来場しました。



こども特別公演

チベット族の舞踊や民謡、楽器弾き語り、チベット地方の藏劇など多彩な演目で構成され、幕間には出演団員にインタビューを行い、高地に暮らすチベット族の生活習慣や文化などを紹介しました。公演終了後も、来場者と出演者の写真撮影など、和やかで楽しい交流となりました。来場者アンケートには、「すばらしかった。歌も踊りも衣裳も。もっと大勢の人に見てほしい」「来年もやってほしい」「チベット族の文化に触れられてよかった」など、青海省チベット文化に初めて触れ、興味をもったという意見が多くみられ、日中文化交流として大きな収穫を得たと感じました。



公演後の交流

また10月21日には、(公財)藤沢市みらい創造財団の主催のもと、藤沢市湘南台文化セ

ンター市民シアターにて巡回公演を行い、こちらでも大盛況でした。これからもより多くの日本の地域に中国の素晴らしい文化芸術を紹介し、日中の交流に尽力していきたいと思えます。

(文化事業部)

◆後楽会会員総会（もみじの会）

第24回目となる、2014年の会員総会は、11月26日（水）の夜、小石川後楽園内「涵徳亭」にて行われました。日中友好会館 宮本雄二副会長の開会挨拶を皮切りに、盛んに交流が行われ賑やかな会となりました。紅葉は見ごろをちょうど迎えていたころでしたが、残念ながら冷たい雨の日となってしまいました。それにもかかわらず後楽会会員、後楽寮寮生代表、会館役職員、総勢70名が集まりました。



寮生と会員で交流

◆秋季ハイキング

秋のバスハイクは、11月13日（木）後楽会員と後楽寮生計22名が参加し、山梨県を訪問しました。

昼食は、河口湖付近にて郷土料理のほうとうやワカサギフライに皆で舌鼓を打ち、その後、もみじ回廊をはじめとする紅葉スポットを散策し、色とりどりの紅葉や雄大に聳え立つ世界文化遺産の富士山に参加者一同感動しました。



富士山をバックに記念撮影

また、昔ながらの茅葺屋根が集まる西湖いやしの里根場では、素焼きの色付け体験でコースターを作成しました。絵の具を使って文字、絵、富士山など、好きな絵柄を描き良い記念となりました。移動中のバス内では話し声や笑い声が絶えず、終始交流していた参加者同士の絆は深まりました。



自分で色付けしたコースターに大満足

(後楽会事務局)

◆小田原ホームステイの感想

11月1日から11月3日まで、後楽寮の先生や小嶋ご夫妻のおかげで、人生で初めてのホームステイを体験でき、すごく楽しく過ごすことができました。

着いた日は、あいにく雨が降っていましたが、迎えてくれたお二方の親切さで心まで暖まりました。今回は人数が多かったので、小嶋さんは車で二回に分けて私達を運んでくれました。ご面倒をかけて、ごめんなさい。家に着いたら、温かいすき焼きが待っていました。皆は体が冷えていましたから、お肉をいっぱい食べました。小嶋さんのお家の半年ぐらいの食料を食べたのかなと思って、すごく恥ずかしかったです。

皆は飲みながら、小嶋ご夫妻といろいろ喋りました。お二方はこの何十年、ずっとこのようなホームステイを行なっていると聞き、感心しました。さらに、東南アジアの貧しい子どもたちにもいろいろ支援しています。単純にすごいなという気持ちでいっぱいです。私たちの微小な力でもたくさんの人を助けられると分かりました。



みかん畑にて

ぐっすり寝た後は何年ぶりの朝ご飯でした。本当の家に戻ったような気がしました。食べ終えた後、まずはみかん狩りにいきました。人数が多いですから、三台の車に乗りま

した。山道は狭く、さらに途中から、全員でトラックの後ろに乗り、小嶋さんに運んでもらいました。人生初めてのトラックでのドライブは、最高でした。本当にジェットコースターと比べられるほどの刺激でした。また乗りたいです。

その日の午後は、私たちの出番の水餃子作りです。後楽寮の許調理師も一緒に行ったので、餃子の味は間違いなく美味しかったです。小嶋ご夫妻は餃子をすごく楽しみにしていて、近所の人にも誘いました。それで、私達も一生懸命に本場の水餃子を作り始めました。許さんの指導で、楽しみながらあっという間に餃子ができあがりしました。



みんなで餃子作り

小嶋ご夫妻とお孫さん達は美味しく餃子を食べていました。その姿を見たら、私たちももっと美味しい料理を出したいと思いましたので、中国語で‘葱油餅’という中国風ピザも追加で作ることにしました。許さんの指導のいかもあり、試行錯誤の中、とうとう最後にどうにか作ることができました。そして、李海鵬さんはピザ作りのコツをマスターしました。そして、彼の自慢の作品をどんどん作ってくれました。もし、今、李さんの奥さんが傍にいて、彼女の手作りソースをそれにかけることができたなら、最高の人生でしょう。

最後の日、朝から、おにぎりの作り方を教わりました。許さんも初めてでしたので、楽しそうに作っていました。これからは後楽寮の食堂でおにぎりが出そうな気がします。

その後、自分たちの手作りのおにぎりを持って、小田原城と箱根の大名行列の見学をしました。

遊びながら、勉強もできました。それよりも、一番勉強になったのは、小嶋ご夫妻の人々に対する優しさです。こんなにお世話になりまして、本当に心から感謝しております。

(後楽寮生 司晨潞)

◆国会見学記

2014年11月5日、天高く馬肥ゆる好季節に、中国留学生友の会からのご招待を受けて、留学生事業部の夏瑛副部長引率のもと、私たち後楽寮生は国会見学をさせていただきました。

国会といえば、平凡な寮生たちにとってはおそらく遠い存在と言えるだろう。しかしながら、国会は日本人の生活の隅々まで、さらには中日関係に大きく関わる場所である。ゆえに、興味や関心をもつ寮生にとっては、とても貴重な機会となった。

午前10時半ごろ、衆議院第二議員会館で中国留学生友の会の歓迎を受けた後、野田毅議員秘書の高砂様の案内で、御休所、御休所前広間、中央広間、床の大理石、柱、衆議院、都道府県の木などを見学した。みんな説明を聞きながら不思議な旅をしているようで、存分に楽しむことができた。記念写真を撮ってから、衆議院第二議員会館に戻って、用意されていた昼食をいただいた。

昼食のとき、野田議員の奥様で中国留学生友の会の代表世話人である野田みどり様が私たち後楽寮の寮生に「今日の見学を楽しく覚

えておいたならば、またいつか思い出すことになります。たのしい留学生活を送れるように、また日中関係の架け橋になることはたいへん有意義なことです。みなさんは中日の友好事業をもっと広げましょう」と歓迎の意を述べられ、笑顔で我々留学生に「がんばってください」と励ましをされていた。食事中、野田議員がご多忙の中、わざわざお見えになられた。野田議員は「できるだけいろんなことを見て、いろんなことを学んで、中日が仲良くできるように努力してください」と寮生たちに大きな望みを託していた。また中日関係について「もっと大きく見る」という理念を野田議員は寮生たちに伝えた。「中日の間にはいろいろな利害があるが、争うことは利口なことではない。大局を見て、もっと高いところへ行けば視界が広がる」と。さらに中国の「高きのぼりて遠く見える」ということわざを借用し、喩法を利用して「大きな川なら目の前の流れだけを見るより高いところでみればわかるようになる」と確かな道理を説明してくださった。意義深いお話しに寮生たちは感動し、熱烈な拍手を送った。



野田ご夫妻(左4、左2)を囲んで

国会見学の時間はあまり長くはなかったが、みんなは日本の政治制度だけでなく、日本社会への理解がいつそう深くなり、さらに中日関係を深く理解することができた。政治は中日関係の中核的存在で、国会見学はその意味で意義深いことになる。みんなの胸には平和と友好の種が蒔かれた。日本での留学生活は

心の中に根を下ろし、歳月が流れるにつれて、いつのまにか大樹に成長し、中日友好の架け橋を支える大きな力となる。未来の世界の一切は今の若者の胸に秘めた平和と友好の種にあるのではないだろうか。後楽寮生として、後楽寮、日中友好会館また中国留学生友の会などいろいろ恩恵を賜る方々にいちばん感謝の意を表す方法は、日本での留学生生活を大切にして、将来自分のすべき事業や中日友好に一生を捧げることしかない。過去を辿り、未来を悟り、現在を守り、国会見学により与えてくれた思いが私の中でずっと続いている。

(後楽寮寮生 王曉華)

◆後楽会(中国)友好聯誼会 2014年度年次総会

2011年に成立された後楽寮OB・OG組織である後楽会(中国)友好聯誼会が昨年に引き続き、11月8日に北京の北郵科技大廈において年次総会を開催しました。日中友好会館からは武田理事長、留学生事業部の野原部長と田辺部長代理が参加し、また、呉從勇元中国代表理事や日本大使館広報文化センターの方にもご参加いただき、元後楽寮生の皆さんと交流を深めました。元寮生は最近退寮した20代の現役大学院生の方から最高齢は71歳まで、年齢や在寮年代が様々な70名が一堂に会し、北京はもとより遼寧省、河北省、山東省、山西省など各地から参加、また、昨年設立された新疆分会や今年の8月、新たに設立された上海分会からも参加がありました。今回は10名の元後楽寮調理師も参加し、寮生との久しぶりの再会に大いに盛り上がったようです。

会ではまず羅民会長よりこれまで3年間の活動と2015年度の計画が報告されました。また、後楽会(中国)友好聯誼会も3年が経ち、羅会長に代わり、副会長であった陳曉光氏(元後楽寮事務室職員)が新会長になり、若いス

タッフも加入し、新たなメンバーで今後3年間にスタートすることになりました。



年次総会の様子

今回の特徴として、参加者が年次総会の様子をその場で微信などを使ってアップしたり、後楽会(中国)も微信のQRコードを取り入れたことなど、連絡が便利かつスピーディーになったことが感じられました。

今後も後楽寮を巣立っていく寮生はますます増えていきます。おそらく2015年度末には後楽寮生OB・OGは延べ4,500名になると思います。留学生事業部では今後も後楽会(中国)友好聯誼会と連絡協力し、元寮生のネットワークをますます広げていきたいと願っています。



羅民会長(左4)を囲んで90年代の元寮生の皆さんと

(留学生事業部)

◆防災体験記

地震が起きた瞬間にどう反応するか、あなたは想像したことがありますか。3.11 東日本大震災を経験したことのある友達が、「地震が発生した時、微動だにせず椅子に座って全く気にしなかった」とおどけていました。私たちは不慮の事態に対しては、いつでも柔軟に対応できるものと思いがちですが、いざそれに直面すると意外に戸惑うものです。転ばぬ先の杖といいます、何事もよくシミュレーションしておくことが大切です。

先日、私たちは東京池袋防災館へ防災体験に行きました。ここは東京三大防災館の一つで、交通の便もよく、様々な施設が完備されています。四階と五階には救急・地震・消火・煙コーナーなどが設置されており、私たちは解説員の方と四つの災害を体験しました。ここでは専門的な防災知識を得ることができ、また実際の体験から災害への対応力も身につけることができました。とても有益な時間を過ごせて、これらの体験は私たちの一生の宝となることでしょう。

防災体験では知識を得られるばかりでなく、防災の「面白さ」に気づききっかけとなりました。私は初めて心臓マッサージの正しい位置や力の強さ、頻度を知り、AEDと消火器の操作方法も勉強しました。また、非常口に気をつけることや災害対応時に落ち着くことの大切さも深く意識できるようになりました。消火訓練では、火災発生の瞬間の環境変化を直に感じることができました。地震模擬設備では、地震の強さを感じ、地震に対する感知力も身につけました。煙コーナーでは六人が一つの隊を組織して、一緒に腰をかがめ、ハンカチで口と鼻を覆って最短の時間で密室から逃げられました。大変に面白く充実した体験でした。また、ここでは防災に関する多くの映像、漫画などが閲覧可能で、防災の面白

さを一層強く感じるすることができます。このように三時間ほどの体験でしたが、参加者全員全く退屈することなく無事終わることができました。



心臓マッサージを体験

いざという時のことを考えると、災害対策の勉強は人生の必修科目です。私は幸い、このような貴重で得難い体験をする機会に恵まれました。このすばらしい体験から、日本の防災機関の人命に対する尊敬の念を深く感じ取りました。それと同時に、災害に対する自分自身の認識の甘さを感じ、怖くなりました。災害が発生した瞬間の行為が人命を左右します。私たちの活路を開くのは自分自身であり、また周囲の人々に対する責任でもあります。池袋防災館の呼びかけのように、楽しく防災体験をして、大切な命を災害から守りましょう。

(後楽寮寮生 芮琦家)



◆ 「JENESYS2.0」 中国学生訪日団第15陣が来日 農学・環境をテーマに活動

11月4日から11月11日までの日程で、中国大学生訪日団第15陣(団長=朱丹 中国日本友好協会 副秘書長)が来日した。本団は、中国人民大学および中国農業大学で農学を学ぶ大学生と、北京師範大学で環境学を学ぶ大学生で構成された計96名で、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は第1分団は農学、第2分団は環境学を学ぶ学生とで分かれ、東京、熊本、滋賀、京都、大阪を訪問。日本の大学生との交流や、環境に優しい有機農業をテーマとした講義、地方自治体によるブリーフ、企業視察のほか、「クールジャパン」を体感するさまざまなプログラムに参加し、歴史・文化・社会など包括的な対日理解を深めた。

東京・熊本・滋賀で専攻に合った視察・交流

東京ではまず、大地を守る会理事、株式会社大地を守る会取締役の長谷川満氏より、同会が取り組む環境に優しい有機農業に関する講義を聞いた。有機農業の中国での展開の可能性について、団員が日本の事例を参考に考えを深めるきっかけとなった。その後、第1分団は東京農工大学農学部へ、第2分団は東京大学新領域創成科学研究科を訪問。それぞれ、施設・設備見学や模擬授業を行い、各専攻での研究について見識を広めるとともに、学生交流を通じて積極的に日本の学生との友好を深めた。

日程後半、第1分団は熊本、第2分団は滋賀へ移動し、各専攻に合わせた視察・交流を行った。

第1分団はまず、熊本県農林水産政策課による「農地集積と新たな米政策」をテーマとしたブリーフを受け、熊本県の農業行政にか

かわる取り組みについて学んだ。続いて、東海大学阿蘇キャンパスにある農学部を訪問し、模擬授業や学生交流を行うとともに、阿蘇の自然を利用した広大なキャンパス内の施設を視察した。また、阿蘇市手野地区の農家でホームステイを行い、日本の農家の暮らしを体験しながら、ホストファミリーの温かさに触れた。さらに、阿蘇火山博物館や草千里にて阿蘇山の雄大で美しい自然を満喫し、歴史情緒ある熊本城を参観した。

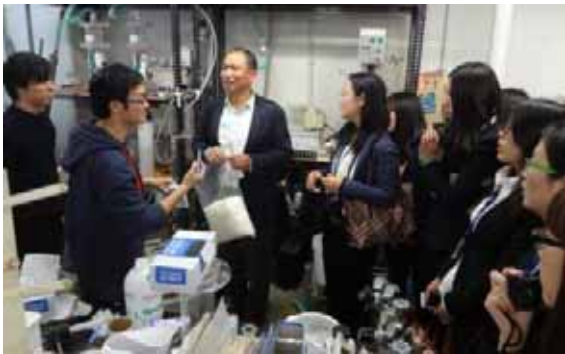


東海大学阿蘇キャンパスの実習用の農地を視察

第2分団は、滋賀県琵琶湖環境部より「滋賀県の環境行政の概要」をテーマにブリーフを受け、琵琶湖を中心とする環境保護への取り組みについて学んだ。また、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの理工学部を訪問し、関連施設や実験現場を視察するとともに、学生と自由に交流した。さらに、環境施設・琵琶湖オーパルで琵琶湖に生息するプランクトンの観察実習を行ったほか、滋賀県立陶芸の森や甲賀流忍者屋敷、京都では世界遺産の清水寺や二条城を参観して友禅染体験を行い、日本の歴史・文化への理解を深めた。

そのほか一行は、東京では皇居二重橋・国会議事堂・東京タワーを参観、大阪では大阪ガス・ガス科学館を視察し、さまざまな角度からクールジャパンを体感した。ほとんどの団員が初来日で、「中国も農業の科学技術方面において、日本の先進的なモデルを積極的に

取り入れるべきだと感じた」「大学訪問・交流と環境施設の参観を通して、日本の最新の環境保護の理念とそれを追求する姿勢、またそのための処理方法と技術・設備について理解することができた」「ホストファミリーとの交流を通して、日本の一般の人々の考えを知ることができた。両国民が友好と平和を望んでいけば、日中関係は必ず良くなると信じている」といった感想が多く聞かれた。



立命館大学工学部の実験室にて学生から
研究内容の紹介を受ける

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第16陣が来日 長野訪問や日中韓囲碁交流

11月20日から11月27日までの日程で、中国大学生訪日団第16陣(団長=劉子敬 中国日本友好協会 理事)が来日した。本団は、中国で法学、国際関係を学ぶ学生と、囲碁を嗜む大学生で構成された計124名で、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は東京、長野、神奈川を訪問し、日本の大学生と授業参加や交流会、地域の学生・市民との地域参観、専攻に関する訪問・

視察、セミナー、地方自治体によるブリーフを行った。また、日中韓大学生囲碁交流にも参加した。このほか、「クールジャパン」を体感するさまざまなプログラムに参加し、政治・歴史・文化・社会など包括的な対日理解を深めた。

同世代の大学生と有意義な交流

団員は第1分団は法学、第2分団は国際関係を学ぶ学生で、第3分団は囲碁を嗜む学生という構成だった。東京では第1分団は学習院大学、第2分団は早稲田大学を訪問し、それぞれ大学生との交流会やディスカッション、キャンパスツアー等を行った。学習院大学では、中国でも近い将来必ず必要になる「成年後見制度」について模擬授業を受け、法学を学ぶ学生たちにとって非常に有意義な時間となった。早稲田大学では、「日中関係史」の模擬授業を受け、日中関係は西洋文化とも関連性があることなどを学んだ。国際関係を学ぶ学生にとって興味のある内容で、多くの質問が挙げられた。両大学とも日本の学生と一緒に授業を受け、中国大学生にとって日本の大学生活を体験する貴重な訪問となった。第3分団は「日中韓大学生囲碁交流 2014」に参加。2日間にわたり、日中韓の大学生がペア碁や3対3の対局、国別対抗戦など、白熱した対局を行った。開会式には中国大使館から韓志強臨時代理大使が出席したほか、外務省アジア大洋州局の河上淳一アジア青少年交流室長も参加し、囲碁交流にエールを送った。対局後はペアやグループで打ち方や戦略の意見交換をするなどし、囲碁を通して3カ国の大学生の友情を育んだ。

長野県長野市・大町市で学生や市民と地域参観

東京での交流を終えた訪日団は、長野県へ移動。第1・2分団は長野県短期大学、信州大学、長野県長野高校、長野高専の学生らと一

緒に、総勢120名で長野市内を参観。24グループに分かれ、日本の学生から中国語や英語で善光寺や松代を紹介してもらいながら地域の魅力を満喫した。どのグループの中国大学生も興味津々で見学し、日本の学生と積極的に交流を楽しんだ。松代では3グループに分かれてそれぞれ茶道、華道、古武道の歴史や作法を学ぶとともに、実際に体験した。日本の学生と一緒に日本文化を体験することができ、実り多いプログラムとなった。第3分団は大町市を訪問し、ボランティアガイドの案内で市内を参観するとともに、囲碁を通じた町づくりが盛んな同市の担当者から、アルプス囲碁村会館の取り組みについて説明を受けた。日本棋院大町支部のアマチュア囲碁愛好者と対局も行い、囲碁を通じて地域の市民への理解を深めた。



長野の学生と一緒に茶道体験

ブリーフや講義、視察を通して専門分野の理解を深める

日程後半は東京に戻り、第1分団は最高裁判所と法務省法務史料展示室を視察。法学を学ぶ学生にとって、日本の司法権を担当する最高機関の視察や、日本の司法制度、司法を通じた日本の近代国家への歩みを学ぶことは、大いに参考になった。第2分団は共同通信社を訪問し、「共同通信の報道活動と海外での取材現場」「日本国憲法と報道の自由について」の講義を受け、社内見学を行った。第一線で

活躍する国際記者から国際報道について学び、多くの収穫を得ることができた。また、第1・2分団は、横浜市政策局国際政策室より「横浜の国際都市戦略」についてブリーフを受けた。団員からは、2020年の東京オリンピックに向けての横浜市の計画や対策、女性の社会進出についての取り組み、工業都市として栄えてきた横浜市の環境対策など、さまざまな質問が挙げられ、団員の関心の高さが伺えた。

そのほか一行は、東京では国会議事堂、国立科学博物館、浅草寺、神奈川では横浜みなと博物館やカップヌードルミュージアム等を参観し、さまざまな角度からクールジャパンを体感した。ほとんどの団員が初来日で、「日本人はシャイだと聞いていたが、積極的に交流してくれて感動した」「日本は新しいものと古いもの、さらに自然とも共存していることが分かった」「日本人のおもてなしの心や態度は中国人も見習うべきだと思った」「今回学んだことや体験したことを家族や友人に伝えたい」といった感想が多く聞かれた。本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



日中韓3カ国の大学生が囲碁を通じて交流

(総合交流部)



会館行事と人の動き 11/1～30

会館行事

- 10/26～11/3 ▶ 「JENESYS2.0」2014年度中国高校生訪日団第1陣 来日
(10/27 同団歓迎会、11/2 同団歡送報告会)
- 10/29～11/3 ▶ 貸美術館催事「第12回東瀛印社篆刻展」
- 11/1～11/3、11/28～11/30 ▶ 小田原ホームステイ(後楽寮生)
- 11/4～11/11 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第15陣 来日
(11/5 同団歓迎会、11/10 同団歡送報告会)
- 11/6、11/20 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 11/7～11/9 ▶ 貸美術館催事「中国書画展示会」
- 11/10～16 ▶ 貸美術館催事「第17回国際水墨画交流展」
- 11/13 ▶ 後楽会秋季バスハイク(富士山河口湖、西湖)
- 11/20～11/27 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第16陣 来日
(11/21 同団歓迎会、11/26 同団歡送報告会)
- 11/25～12/3 ▶ 「JENESYS2.0」アジア国際子ども映画祭2014参加訪日団 来日
(12/2 同団報告会・歡送会)
- 11/26 ▶ 後楽寮年次報告会
▶ 後楽会会員総会(もみじの会、於: 涵徳亭)

来館・訪問・面会

- 11/4 ▶ 日本経済新聞 竹田倫示常務理事 来館(荒井常務理事)
▶ ㈱テレビ東京メディアネット 岡崎守恭社長 面会(荒井常務理事)
- 11/11 ▶ 東京大学 総合文化研究科 刈間文俊教授 訪問(武田理事長、荒井常務理事)
- 11/12 ▶ 中央大学大学院 戦略経営研究科 服部健治教授 面会(武田理事長、荒井常務理事)
- 11/19 ▶ 中国大使館 韓志強公使 昼食会(武田理事長)
- 11/20 ▶ 齊了会 井垣清明氏、伊藤俊久氏 来館(荒井常務理事)
- 11/25 ▶ 日中産学官交流機構 清川祐二理事長 面会(武田理事長、荒井常務理事)
- 11/30 ▶ 麗澤大学外国語学部 三瀧正道教授 訪問(武田理事長、荒井常務理事)

行事参加、その他の活動

- 11/5 ▶ 中国留学生友の会 国会見学(後楽寮生)
- 11/8 ▶ 後楽会(中国)友好聯誼会 年次総会(於: 北京 武田理事長、留学生事業部)
- 11/9 ▶ 池袋防災館体験見学(後楽寮生)
- 11/20 ▶ 留団協定例会(於: かながわ国際交流財団)
- 11/25 ▶ 第4回日本・アジア青少年サイエンス交流事業推進委員会 出席(武田理事長)
▶ 中国文化中心 空輿陶器展開幕式 参加(王昆中国代表理事)



2015年1月1日発行 第307号

発行 公益財団法人 日中友好会館

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811 5317 FAX(03)3811 5263

<http://www.jcfc.or.jp/>